

1 指定校・指定校群 （ 坂出市立坂出小学校 ）

2 実施内容

令和6年度では、児童の社会性や自己肯定感をさらに高めることを目指し、1日に1時間「みんなの時間」という時間を設定し、さまざまな活動に取り組んだ。「みんなの時間」の設定により、上学年が下学年の学習を教えたり、お互いに助け合って活動に取り組んだりするなど児童同士のコミュニケーションが活発に行われ、一定の成果が得られた。一方、この「みんなの時間」は児童主体という点では課題が残った。そこで今年度は、児童が将来生きていくための力を育成するために、自分たちで計画・準備し、実行、見直すという流れ、「みんなの時間」を実施した。

また、不登校傾向児童に関わる中で、保護者との連携が何よりも大切であることを実感した。家庭内での生活習慣が確立しておらず、「子どもがまだ起きられないので欠席します」「子どもを送迎できないので欠席します」といった場面が多々あった。また、自分の子どもがKSRという場所を利用していることについて、学級で授業を受けている児童と比べてしまい、マイナスイメージを常にもっている保護者の方もいた。

KSRという場所があったとしても、まず家庭が前向きでなければ、状況は変わらないのではないかと考えた。そこで、今年度は保護者との連携にも力を入れ、KSRに対する後ろ向きな思いの改善だけでなく、保護者の意識改革や保護者への支援を試みた。この2点に重点を置き、KSRを運営した。

(1) 児童主体の活動

「みんなの時間」を利用し、今年度は児童が中心になって活動を行った。児童の「やってみたい」「こんなことをしたら面白いんじゃないかな」という思いを大切に、一から計画を持ちより、児童たちが企画書を作成し、実施に向けた話し合い・準備を進めた。例えば、今年度は「KSRのみんなで四国水族館に校外学習へ行きたい」という思いから、校外学習への計画・準備を児童中心で行った。行先や日程、持ち物などを話し合い、周囲の教員からの指導をもらいながら何度も計画を練り直し、校外学習計画書を児童が作成した。また、保護者への校外学習のお知らせを作るなどの活動も行った。児童主体で自分たちが発信するという経験を積み、達成感を味わわせたいと考え、教師は活動のサポートに徹した。

(2) 保護者との連携

今年度から学校と家庭の関係作りを進めるために、KSRの保護者会「ジャカラダの会」を設立した。ジャカラダの会ではKSRの経営方針や取り組み内容、学校内での児童の様子などを共有したり、保護者間の情報共有・意見共有を行ったりしている。直接保護者の悩みや不安な思いについてKSRの関係者で聞き合うことで、支え合う雰囲気作りができるようにした。また、特別支援コーディネーターにも同席を依頼し、保護者から要望のあった子ども理解や子どもとの接し方などについて助言の機会を設定した。



企画書を起案する様子



四国水族館への校外学習の様子

学習参観後に実施した
ジャカラダの会の様子

(3) 組織的な支援体制の工夫

KSRには所属児童の学級担任をはじめ、様々な教員が関わられるよう、教員の持ち時間を調整している。KSRに学級担任が関わりやすい状況を意図的に作ることで、教室の様子を伝えたり、スムーズに学習の支援を行えたりできるようにした。また、坂出市スクールサポートティーチャーが週に2回程度、非常勤講師が週に4回程度KSRの児童に関わるようにし、児童の支援が行える複数体制を整えた。どのような人がKSRに来て、児童の特性等を理解し、一貫した指導が行えるように、月に1度の「子どもを見つめる委員会」を始め、情報共有を頻繁に行った。また、スクールカウンセラーの来校時こは、必ず児童とスクールカウンセラーとで、5～10分程度の個人面談を行っている。児童の現在の悩み、気になっていることなど、教員や保護者の立場からは聞くことができない思いや困り感を聞き出してもらい、支援のアセスメントに役立てた。



スクールカウンセラーとの面談の様子

3 成果

(1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

- 児童主体の「みんなの時間」を推進したことにより、徐々に主体性が出てきたように感じる。他者との交流機会が増え、人とのコミュニケーションに不安感をもっていた児童も、人との交流を楽しむことができてきている。また、自分たちの力で企画を成功させた経験や、保護者の企画参加等が、児童の自己有用感の向上に効果があったと考える。
- 活動をPDRサイクルで進めたことで、計画段階だけでなく、実行後に「うまくいったこと」「次に改善したいこと」を振り返る姿が見られるようになった。学習に自信が持てなかった児童も、自分なりの役割を果たす中で達成感を味わい、「次はこうしたい」と前向きに考える力が育ってきており、社会で生きていくための基礎となる自己指導能力の育成につながった。

(2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- 児童の特性や状況を深く理解した担当教員を中心に外部人材が、複数人で継続的な指導や支援にあたることのできる体制を構築できたことで、児童が安心して学校に登校できている。また、継続してKSRを設置できたことにより、学校全体でKSRの児童に対する理解が深まり、児童が活動しやすい雰囲気づくりができていく。
- 保護者会「ジャカラダの会」を通して、KSRの取組や児童の学校での様子を共有する機会を設けたことで、KSRに対する理解が深まり、不安感を抱いていた保護者の意識に変化が見られた。また、保護者同士が悩みや思いを共有することで、孤立感の軽減や児童への前向きな声掛けにつながり、家庭と学校が協力して児童を支えようとする関係づくりが進んだ。保護者から、「ジャカラダの会で同じような境遇の人と話す機会があることで、一人で思い悩んでいる気持ちが少し楽になりました。」という感想も得られた。

(3) 総括

今年度、児童主体のみんなの時間やジャカラダの会を行い、児童が笑顔で過ごせるようになったり、保護者が気軽に相談に来られるようになったりと変化を感じている。来年度もこの取り組みを継続しつつ、より児童の「生きる力」の育成を深めていきたい。一方で、未だ登校できず、KSRの利用に至っていない児童やジャカラダの会に参加できない家庭もある。次年度以降、児童・保護者への情報発信や相談体制を、さらに充実させ、家庭と学校が同じ方向を向いて児童を支援できる体制づくりや支援を進めていきたい。